



新下亭  
文庫  
國貞畫  
九編  
後負化

吉田國貞

~ 13  
3755  
5



白  
纒  
譚



九  
編  
上

升  
題  
曲  
多  
國  
事

門へ12  
 3755  
 5



種貞作

國貞

白種禪

第九編

上

冊

柳下

多板

福 一 福

種貞作

薑といふ字を見う九輪塔と讀うとい漢土の笑談やといふ字を在昔  
 木植といふ訓とい倭國の落語字形に依て案する和漢人情相及事  
 多れ對の咄兄弟これハ鷺津の伯叔が狩場發束で母親許哀別未  
 趣とい編り九編は續て話説かゝる一回の酸鼻場と自己獨り思ふもま  
 形の髣髴薑の生汁ぬぐうと眼程の海もいふ例の愚文は無解意  
 條下々の各位任見識は覽察て讀せると免過報稟ハヤといふ  
 字の容の恰似柄杓ふ縁語のまうしといふといふといふといふ

嘉永壬子華歲

柳下亭種貞記



右半葉 玄魚書



博覧の中焉獨鈞  
屋の別荘小於牛  
若那姫の為小好殺  
の刑四討小行後  
卷の趣を引あげ  
此口画小する

若菜姫

獨鈞屋の  
姫主於牛

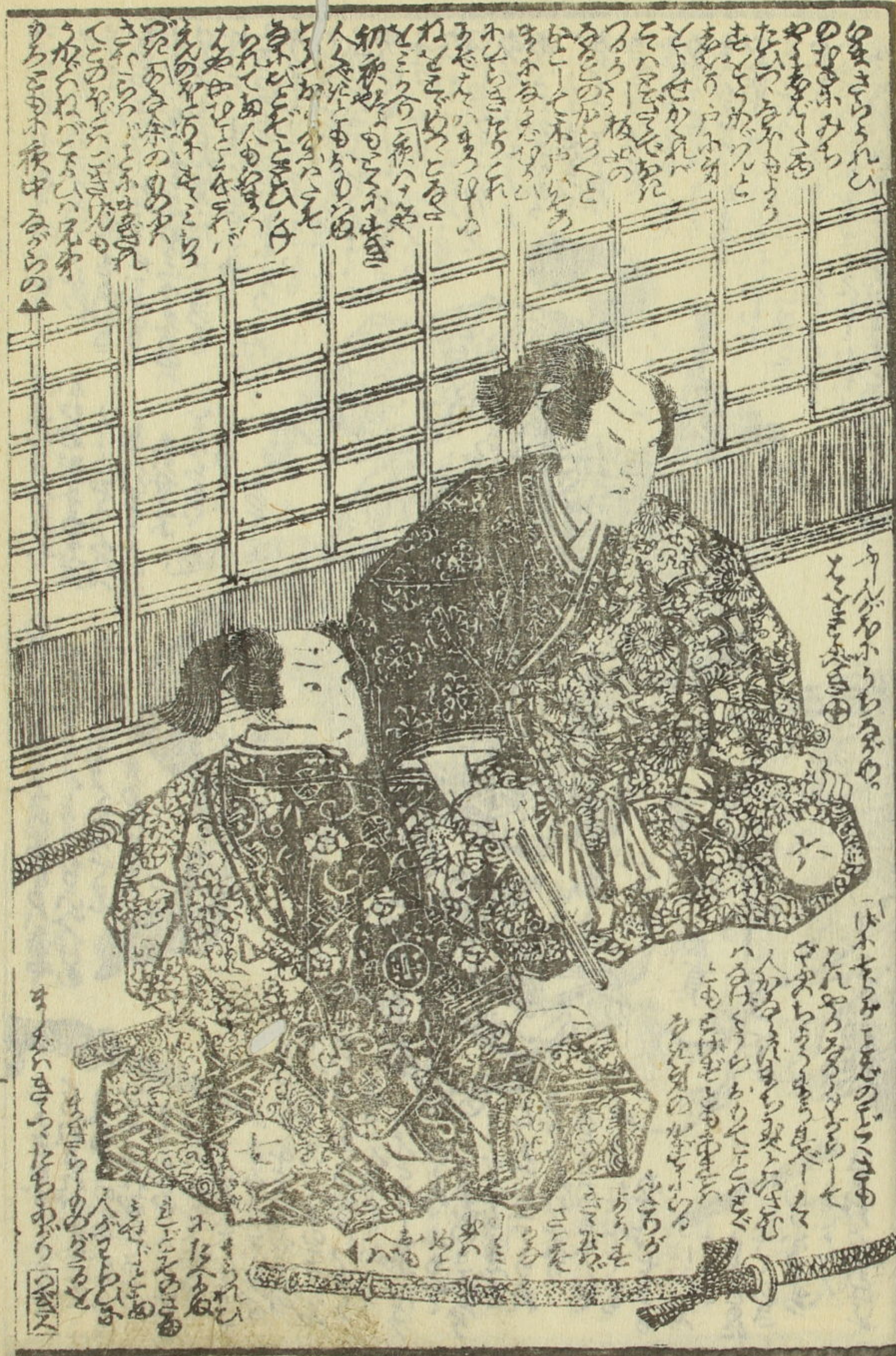
大友刑部の  
脚養邪魔藏



庸醫池井辨達  
菊地家の茶道三原流の小叔あり

契情綾機

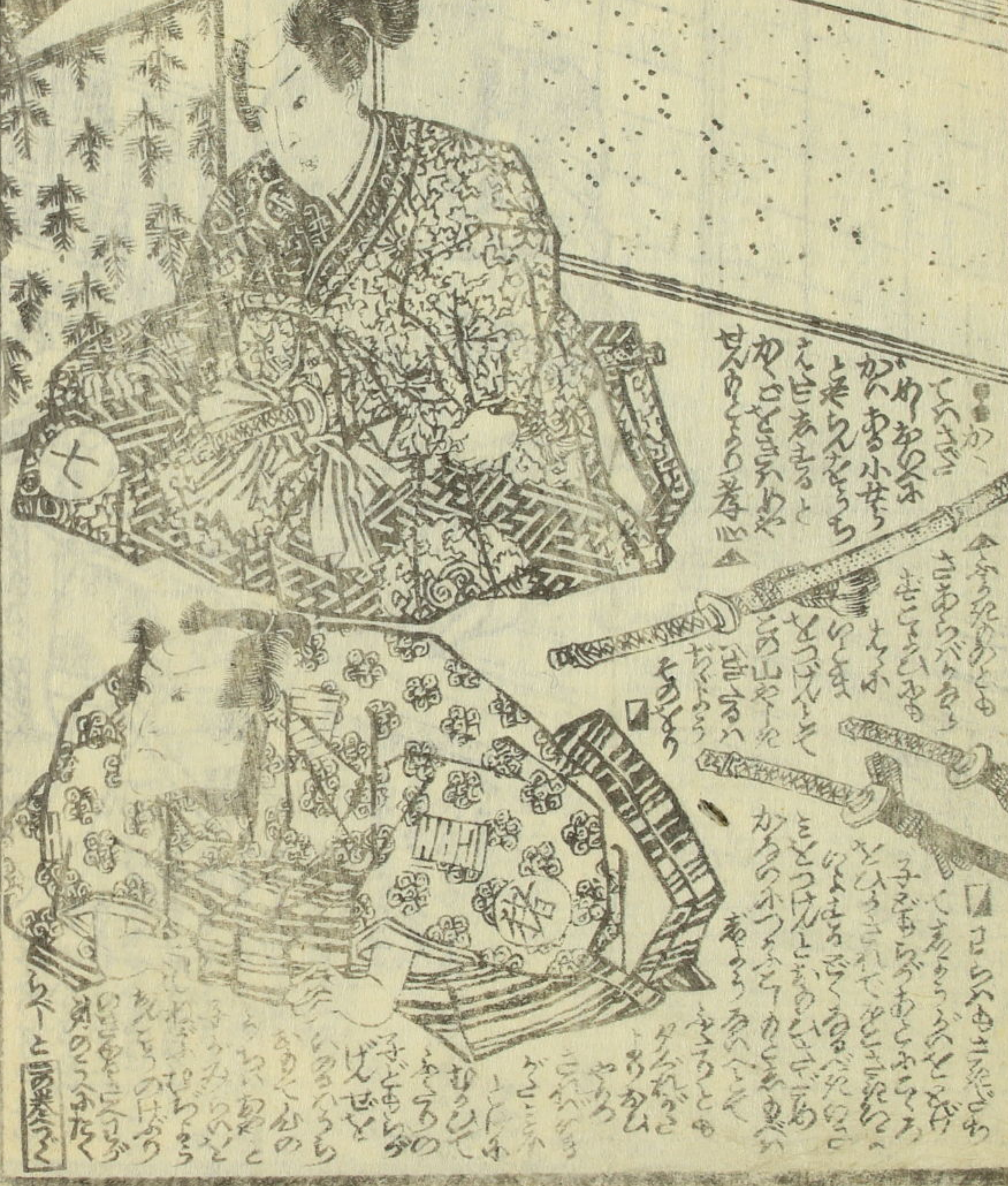
曲五國五





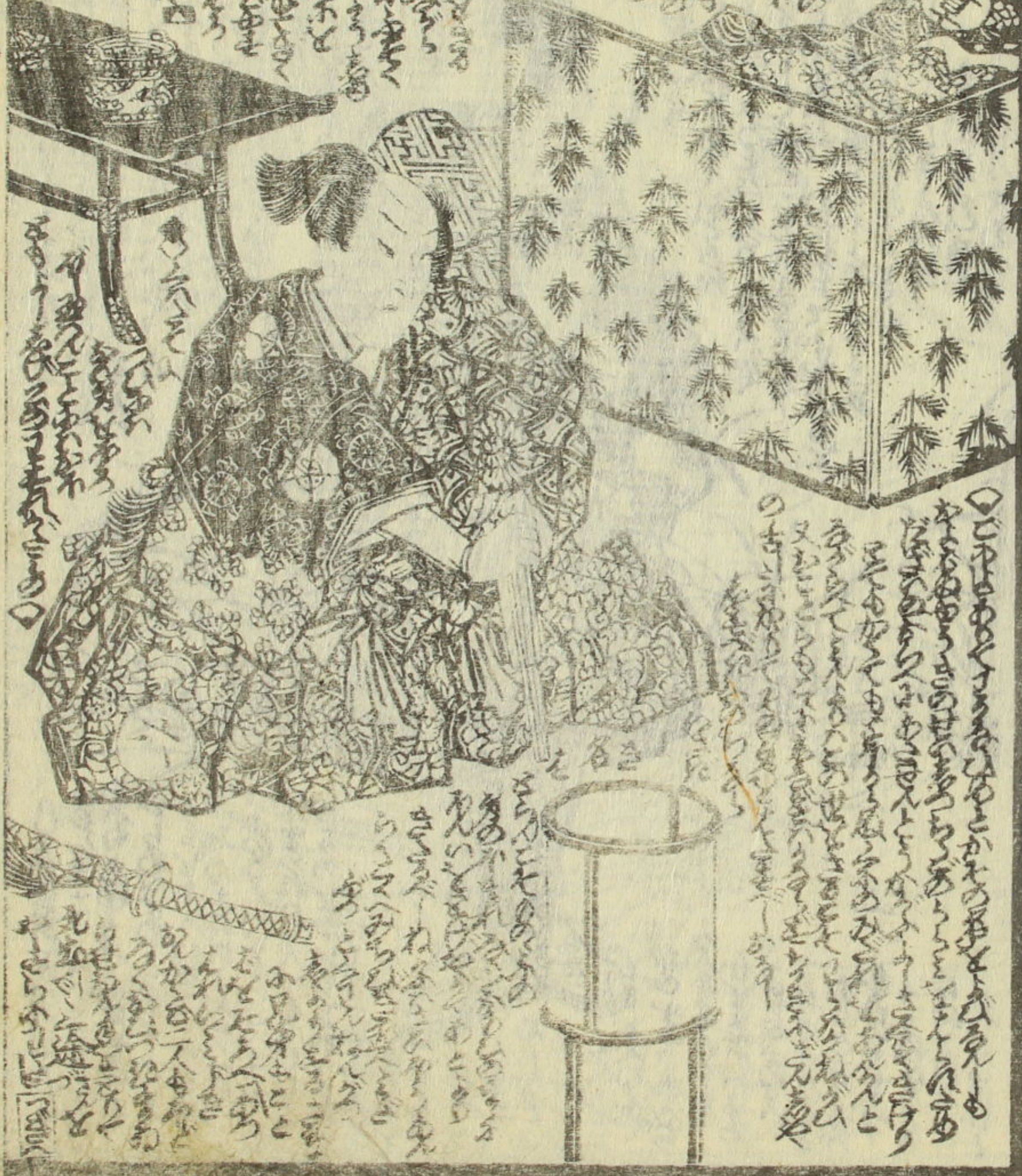


つぎのちいさなあなを  
かえらばつらうなわらわ  
かこいけんじふりあけて  
さだまつとちうへつこゆえ  
きんぎょをふりつるあな  
へのおくうかへりては  
あなをさへりてはあな  
かへりてはあなをさへりて  
かへりてはあなをさへりて



あなをさへりてはあな  
かへりてはあなをさへりて  
かへりてはあなをさへりて  
かへりてはあなをさへりて

あなをさへりてはあな  
かへりてはあなをさへりて  
かへりてはあなをさへりて  
かへりてはあなをさへりて



あなをさへりてはあな  
かへりてはあなをさへりて  
かへりてはあなをさへりて  
かへりてはあなをさへりて





あつたての  
ついでに  
あつたての  
あつたての  
あつたての

あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての

あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての

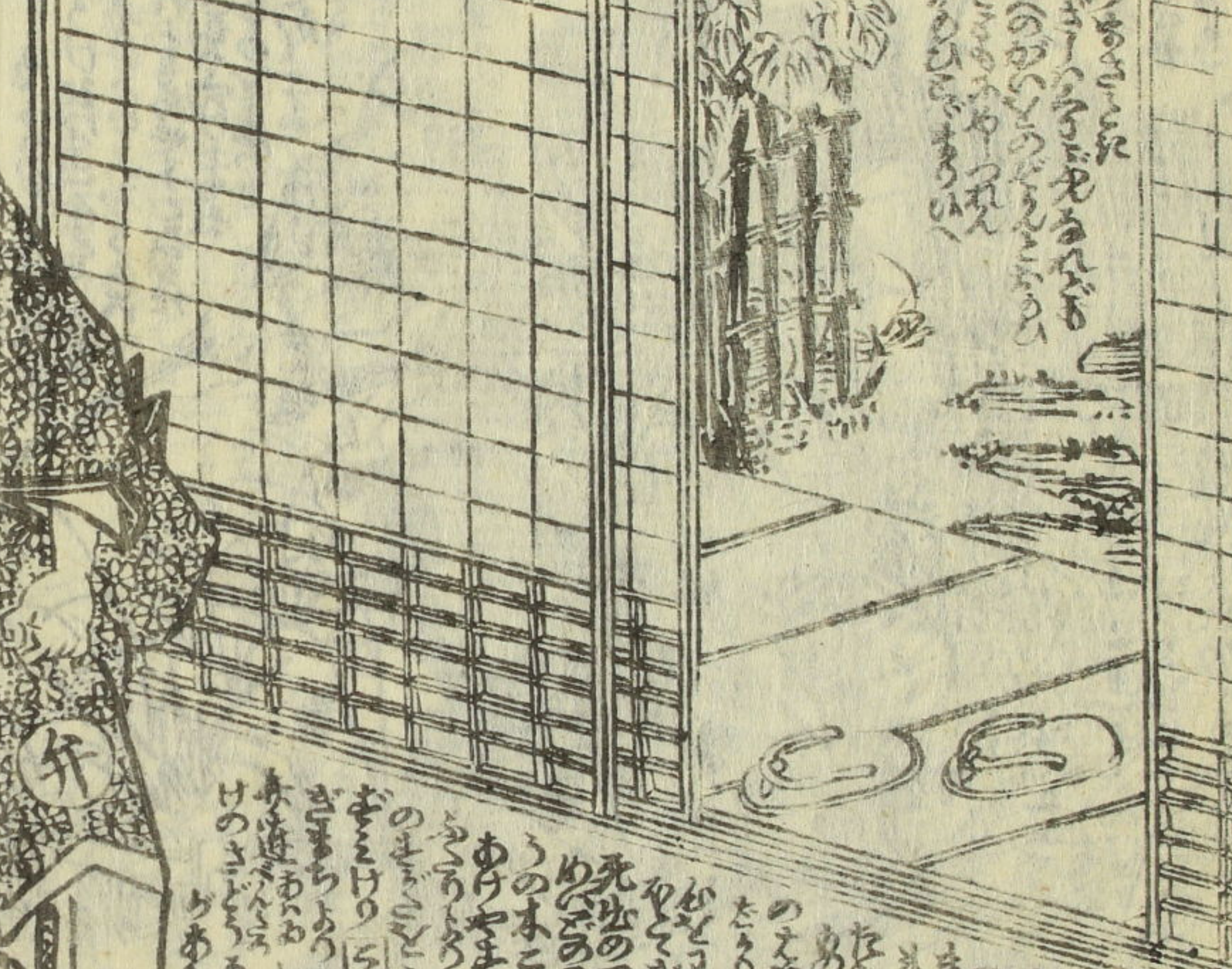


あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての

あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての

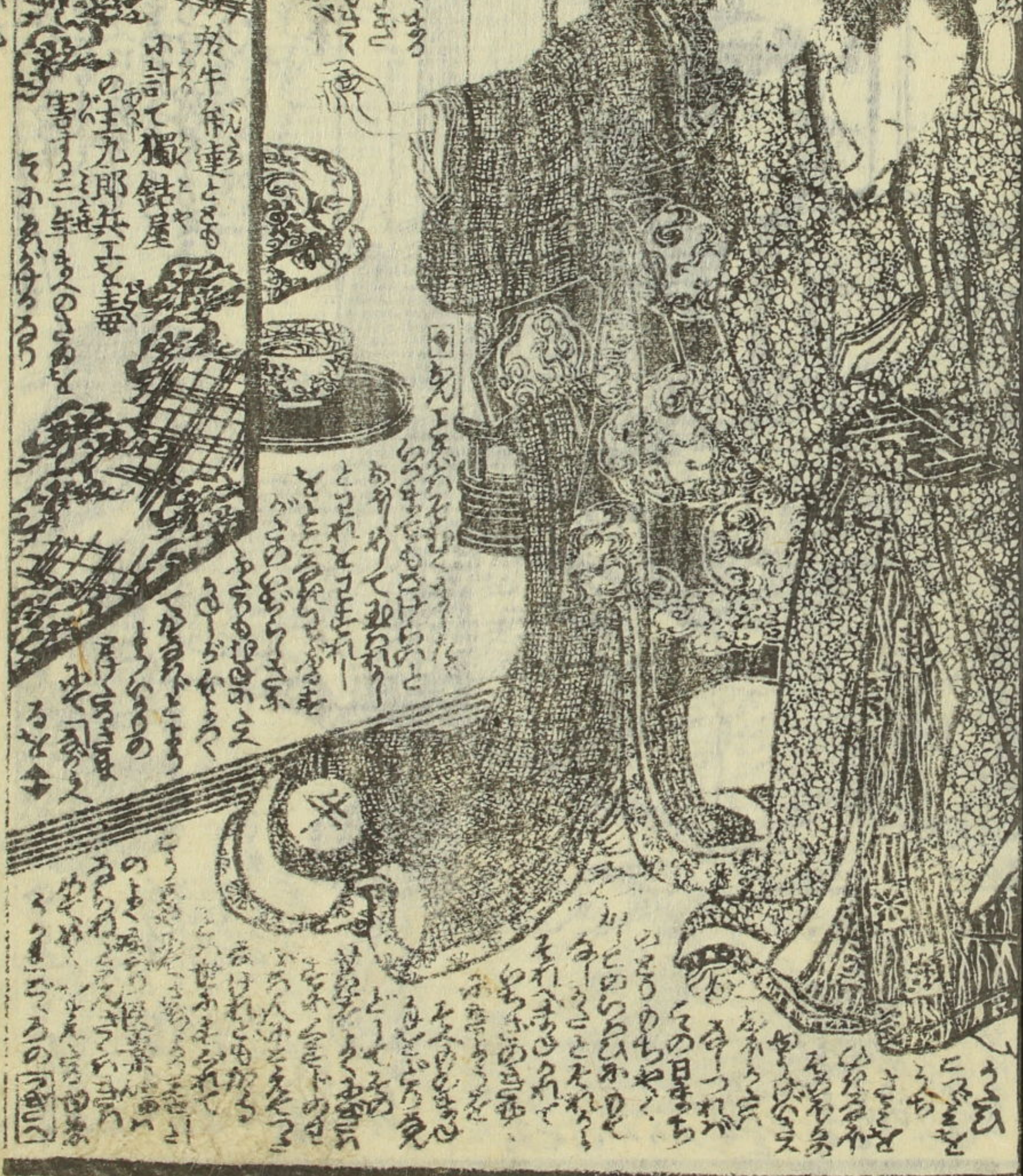
Handwritten text in the top right corner of the right page.

Vertical columns of handwritten text on the right page, positioned above the illustration.



Vertical columns of handwritten text on the right page, positioned below the illustration.

Vertical columns of handwritten text on the left page, positioned above the illustration.



Vertical columns of handwritten text on the left page, positioned below the illustration.

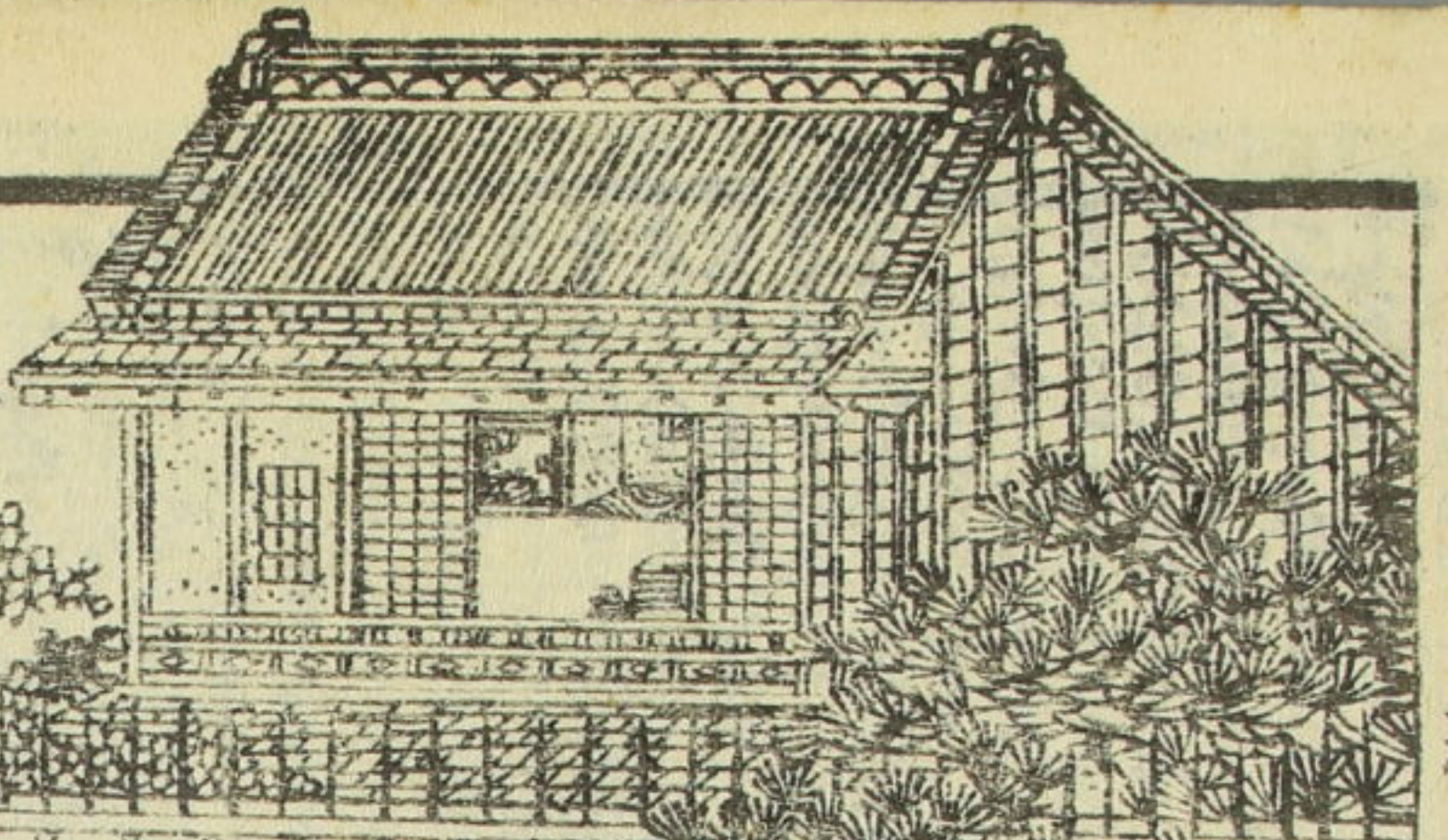




嘉永五年壬子歲新著標目

種員作國貞画

種員作國貞画



種員作國貞画  
此の書は... 柳下亭種員作  
香蝶樓豊國画  
此の書は... 柳下亭種員作  
香蝶樓豊國画

輪廻新編いとまごころ  
中本三冊  
柳下亭種員作  
香蝶樓豊國画

錦木新七  
於梅条之助  
万年草新渡鉢植全  
同同  
同同  
画作

此二書は... 柳下亭種員作  
香蝶樓豊國画

禁玉壺生肌膏  
一貝  
廿六孔

金唐奇功帑  
一枚  
廿四孔

地本繪類書林通油町  
松林堂藤岡屋慶次郎

製藥所新吉原  
取次所真乳賣本坂下  
柳下亭

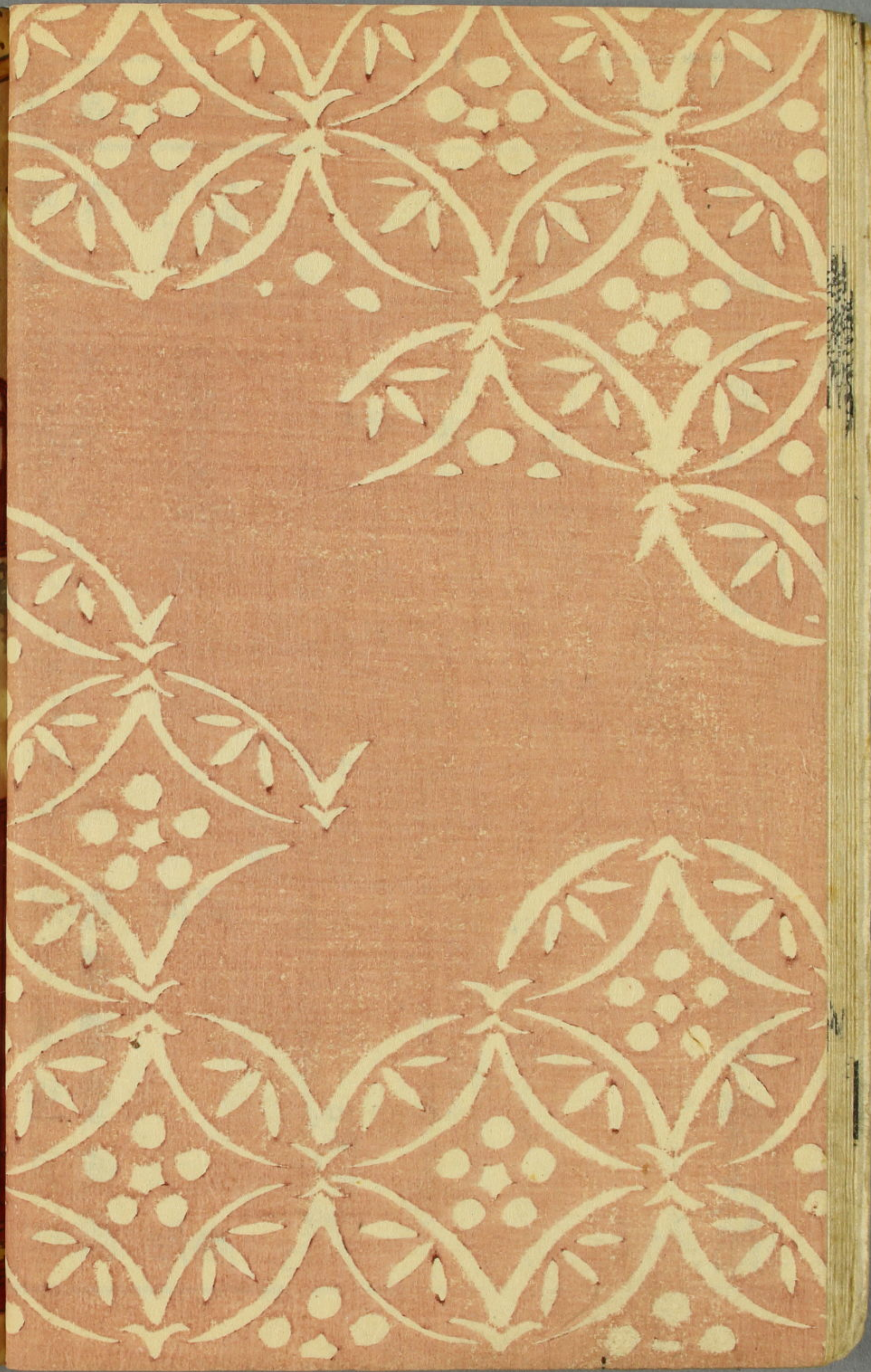
種貞作

國貞画

柳下

文庫

九編下





Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration. The text includes names like 'たけのこ', 'あまのこ', and 'おののこ', along with other characters and symbols.

終員他  
國久重



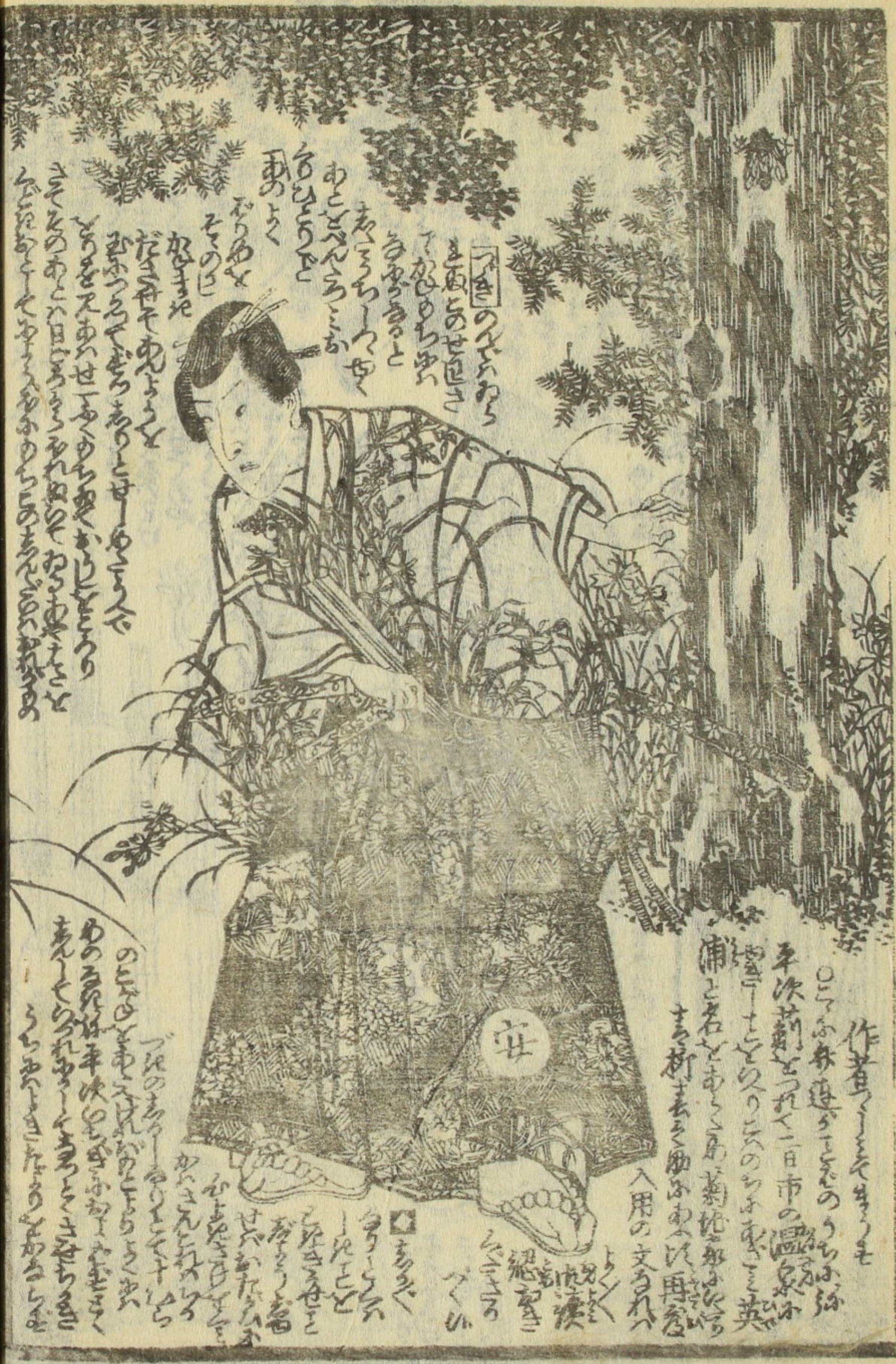
あまのこ  
おののこ  
たけのこ  
あまのこ  
おののこ

柳下  
文庫



Handwritten text in the upper left corner of the left page.

Small handwritten text or signature at the bottom left of the left page.



Handwritten text in the upper left area of the right page, above the woman's head.

Handwritten text in the lower right area of the right page, below the woman's feet.





Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a chapter introduction or a list of items related to the illustration. The text is written in a cursive kuzushiji style.

Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the narrative or providing commentary on the scene depicted in the illustration.

Small vertical text on the left margin, possibly a page number or a reference mark.

Small vertical text on the right margin, possibly a page number or a reference mark.



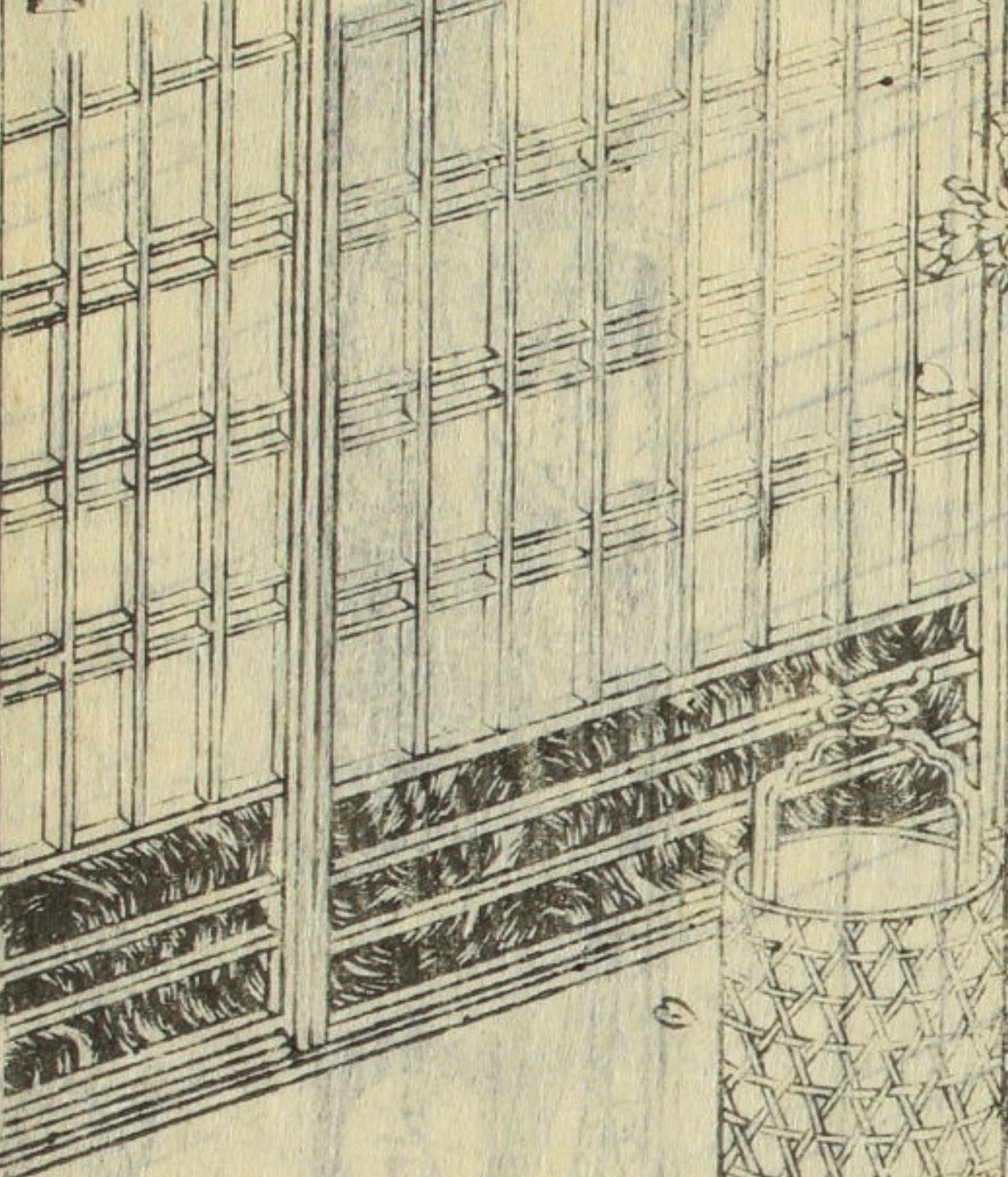




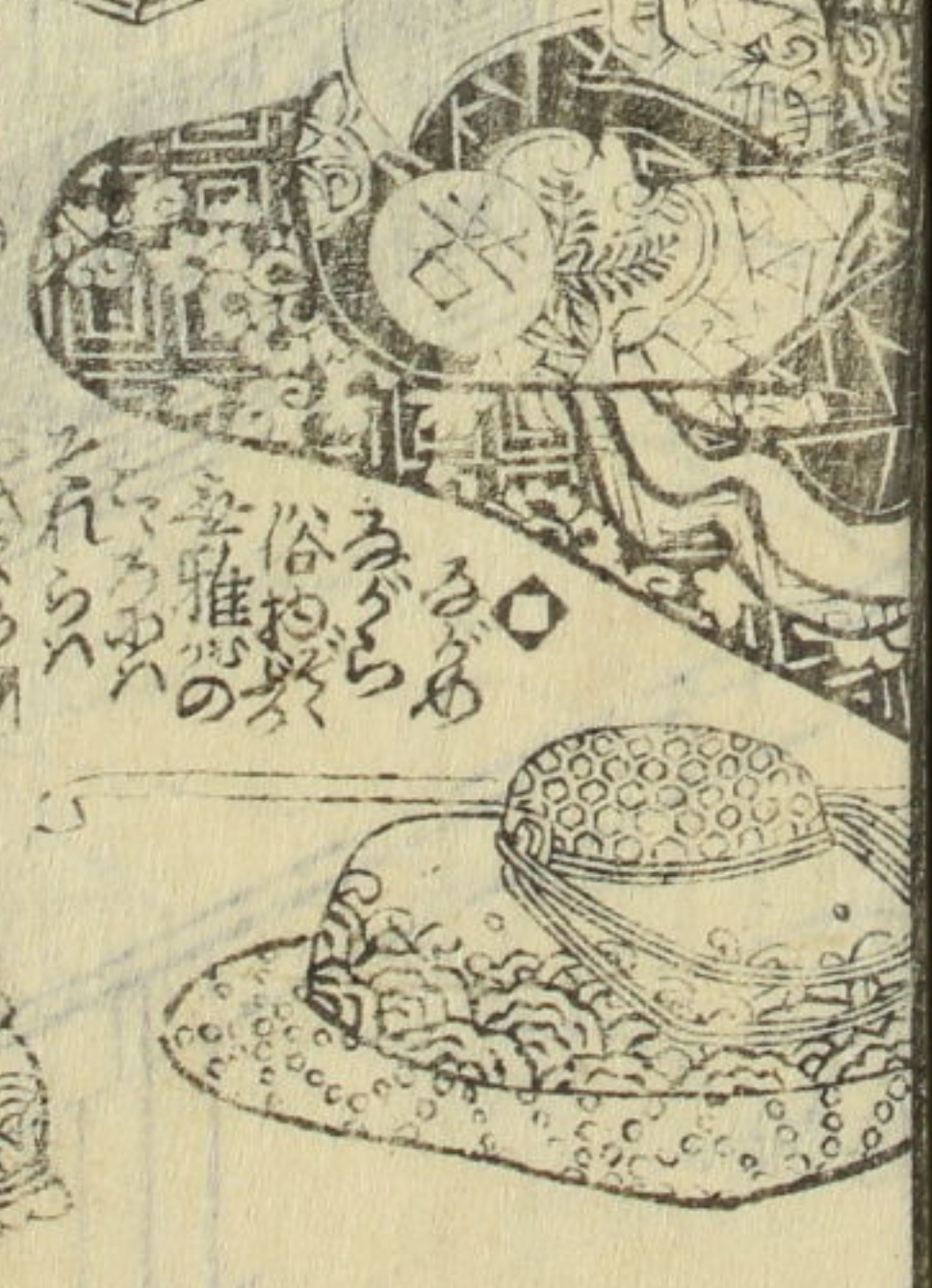




かゝ  
さるや  
おちの  
なちり  
さうま  
わちの  
きとま  
たけの  
ちるの  
体と



山坂  
かたの  
あま  
たの  
かま  
あひ  
か  
あ  
あ



さるや  
おちの  
なちり  
さうま  
わちの  
きとま  
たけの  
ちるの  
体と



かゝ

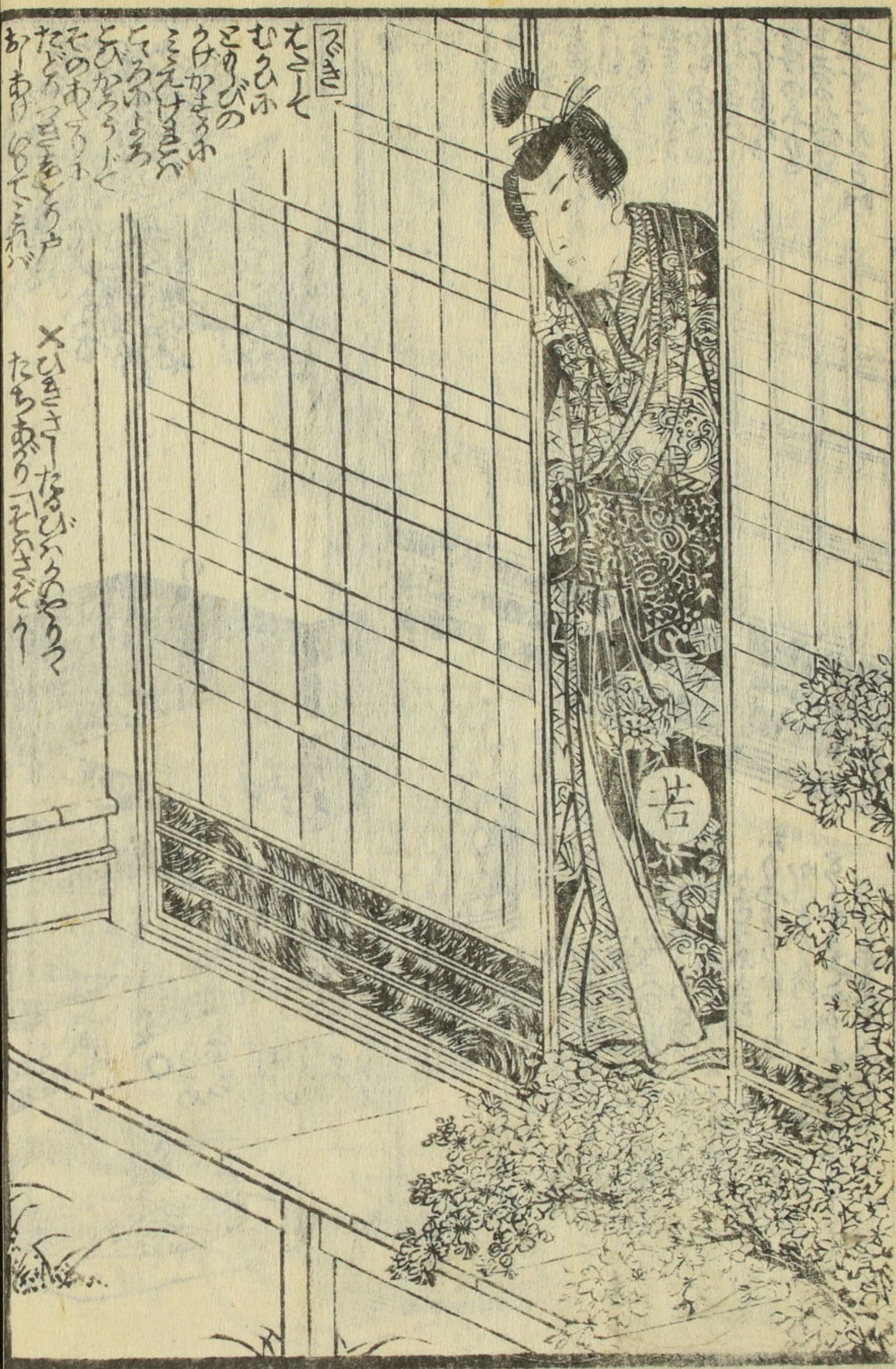
あま



此の...  
 久由もあ...  
 ゆら...  
 こ...  
 さ...  
 さ...  
 ま...  
 あ...  
 た...  
 う...  
 め...  
 る...  
 ち...  
 や...  
 多...  
 の...  
 の...

久...  
 とい...  
 は...  
 あ...

〇...  
 あ...  
 り...  
 者...  
 ま...  
 あ...



〇...  
 え...  
 む...  
 こ...  
 け...  
 こ...  
 ら...  
 そ...  
 た...  
 お...

×...  
 た...

若...

若



地本錦画書林通油町 藤岡屋慶治郎板

新曲富士太鼓

同作 同用

當年出版

右冊子の美しき所見物様方殊々外所意の時以て退て胡編の所存案の間  
 當春の七編より千之編迄の如く遠く板の如くは是より年々七八編つゝ  
 毎邊帯着たり別て早立の兼て所板意致を通り各款の長短  
 由是六編迄の發端同前之趣向當今板の如くは是より年々七八編つゝ  
 條々板成且又更にも殊更丹城の如くは是より年々七八編つゝ  
 自右板毎邊迄の重なるに店を和米とておむ所存案の間

志のぬひも結のるる

折下身種貞作  
 手寫紫樓老國画



○此僧が名の十一人の口画  
 下わる  
 聖王朝倉伊

拾華寺九

蒙能  
琴妣

種員作



志良

上編十

板





志らぬし

物ごころ

第十編

種員記

上册

國貞画



蝸牛の兩角小國をる者あり左と觸氏と曰右と蠻氏と曰地と争て  
戦ひ伏尸て數万不及び北とと遂と旬五日ありて後及るは是寓言の  
魁首なる莊子が則陽篇不見えり僕活業も諧言の委泐太頃開  
説一部の小説事舊る欣るぬひの筑紫乃地名と假借事跡を大  
友菊地不託せ蝸牛の角は國小等く兩雄婁鬪杯毫小任せ一妄  
談無好町戲墨の稗史も時ありて僅に售らん童兒が捕へ蝸牛の  
角とせ棒とせおれあらで可出冊可出稿と催立る書房が使乃  
繁度小困ト最倉卒小此編を綴全一當下微降梅雨は小篠  
てこたれ彼虫と見いで即刻不斯も真トつ  
りし何里何申むを國はあをのむり

嘉永辛亥臯月結稿  
同 壬子泰月發兌

柳下亭種員記





乳母 ゆのと  
秋篠 あきののが  
鳥山 とりやま恩忠 おんちゆうの  
必死 かならずと救ふ すく



錦ヶ嶽 にしんがたけの  
蛭 むし 蟻 あき  
若那嬢子 わくなぢやうぢが  
危急 ききんと助う すく

夢の国 ゆめのくに

花村 はなむらの  
千種 ちかた  
実 まの  
鳥山 とりやま  
秋作 あきさく  
白縫 しろぬい大盡 おほじん  
実 まの  
若那 わくな嬢子 ぢやうぢ



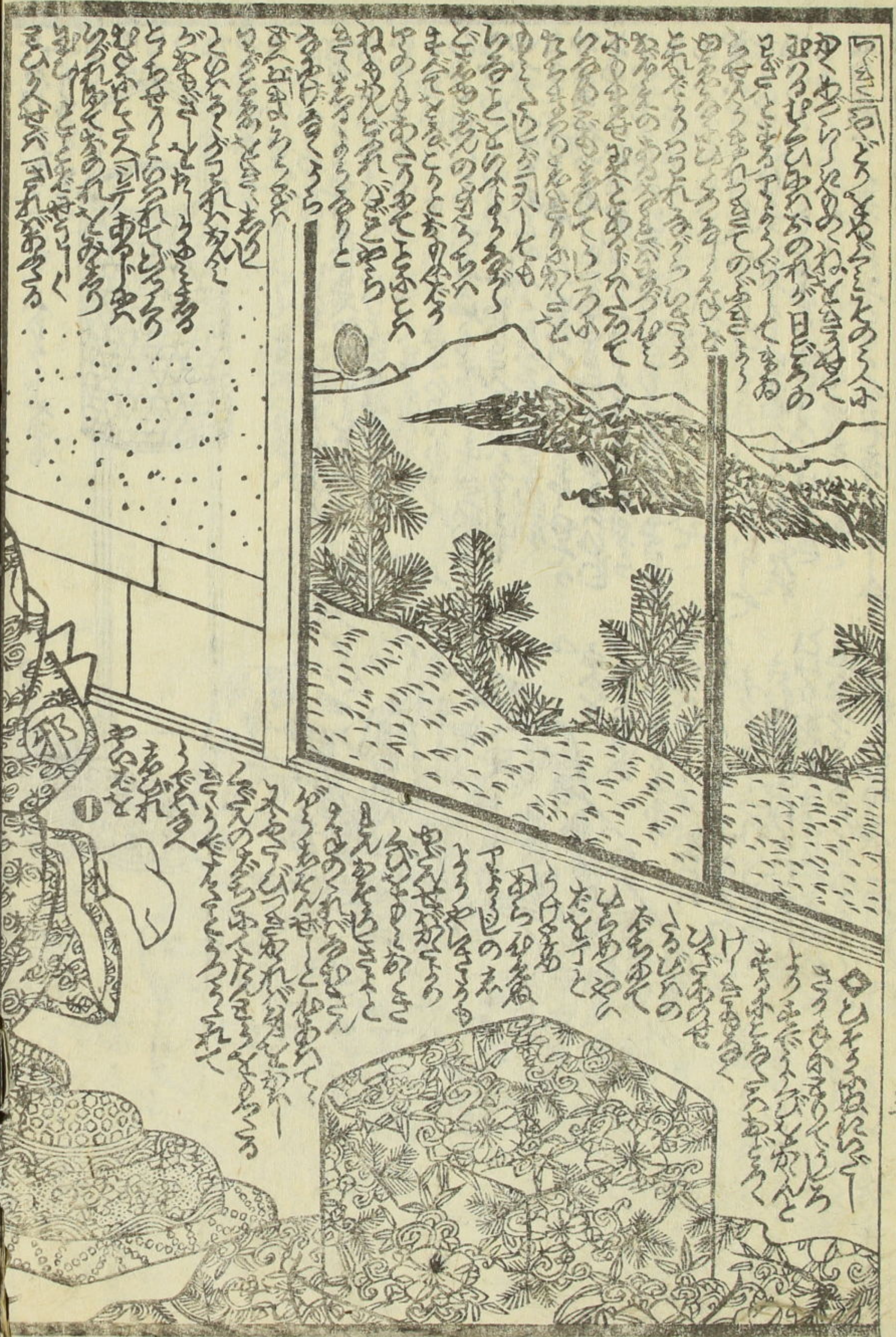


あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの

あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの

あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの

あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの



あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの

あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの  
あつちのうらなひの

あつちのうらなひの

三



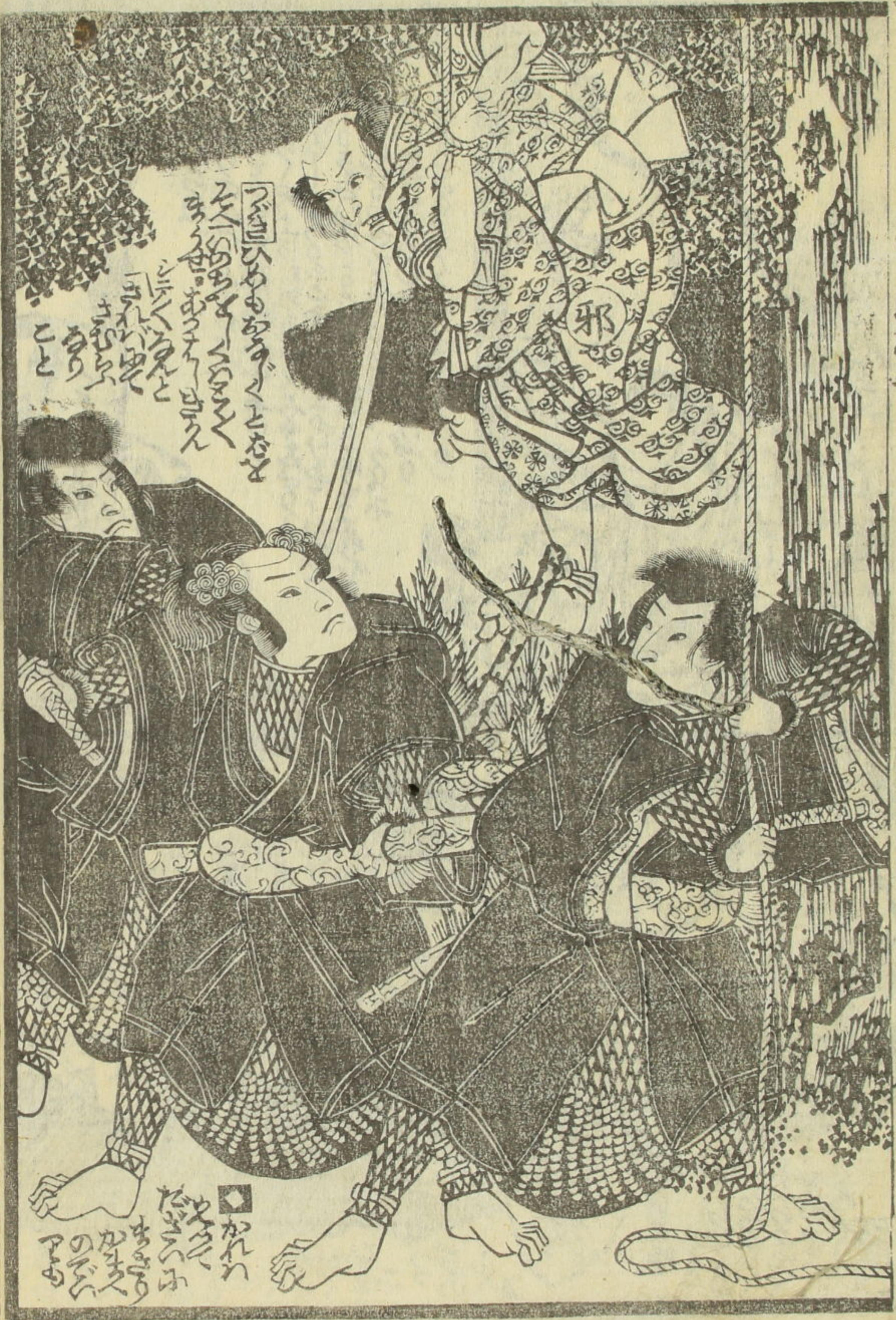












嘉永五年壬子歲新著標目

地本繪類書林通油町松林堂藤岡屋慶次郎

輪廻

新編いとまごの恋

中本 三冊

柳下亭種員作  
香蝶樓豊國画

錦木新七  
於梅染之助

万年草新渡鉢植全

同同

画作

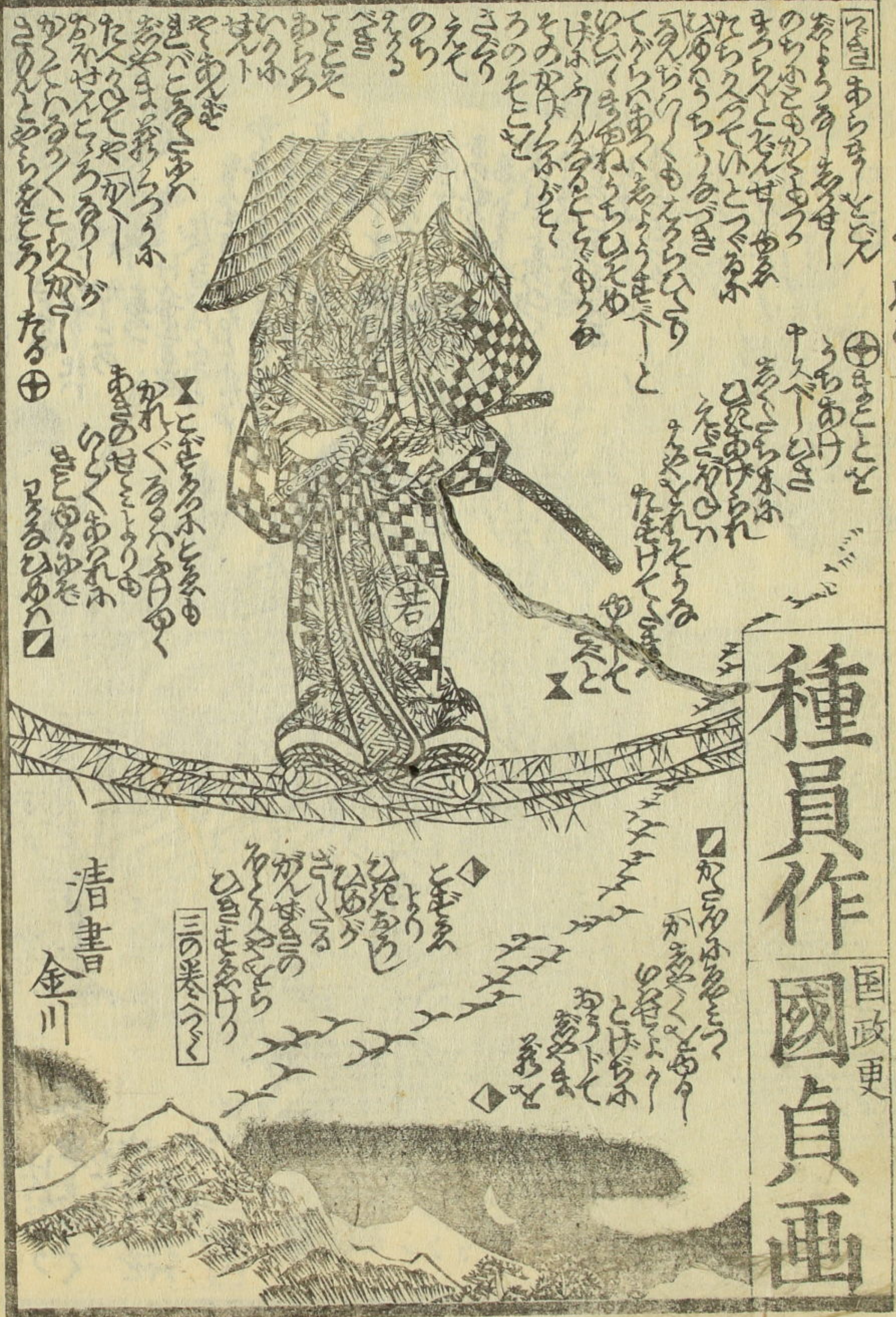
此二書は是迄何某のいさる人情本といふものより異なり忠孝の事とて昔  
こゝろ其体裁のなまじりりと画入よま本の中聞ふつれり年々此類教種は  
いかに御覽のすべし希上

禁玉壺生肌膏 卅六孔

金瘡奇功帝 一枚 廿四孔

製藥所 新吉原 真乳菓石坂下

柳下亭



種員作 國貞画

清書 金川



當  
物

柳  
下  
秀  
梅

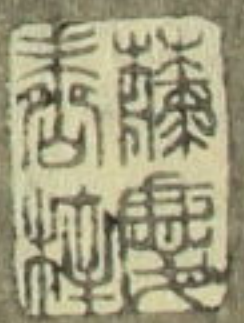
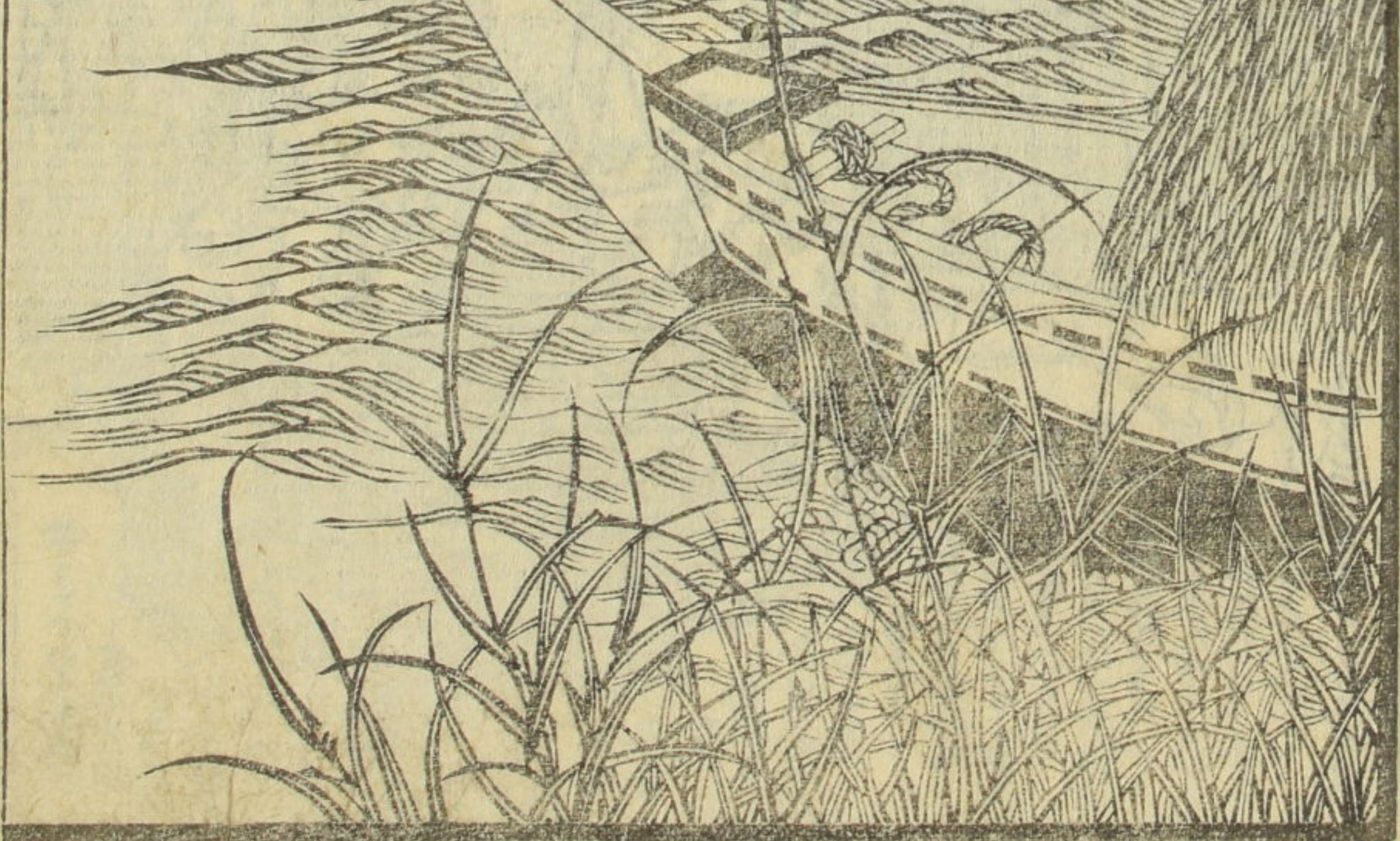
十編下





三  
 種  
 員  
 作  
 譚  
 第拾篇  
 下冊

種  
 員  
 作  
 譚  
 第拾篇  
 下冊











あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの

あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの

あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの

あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの

あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの

あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの



あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの

あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの

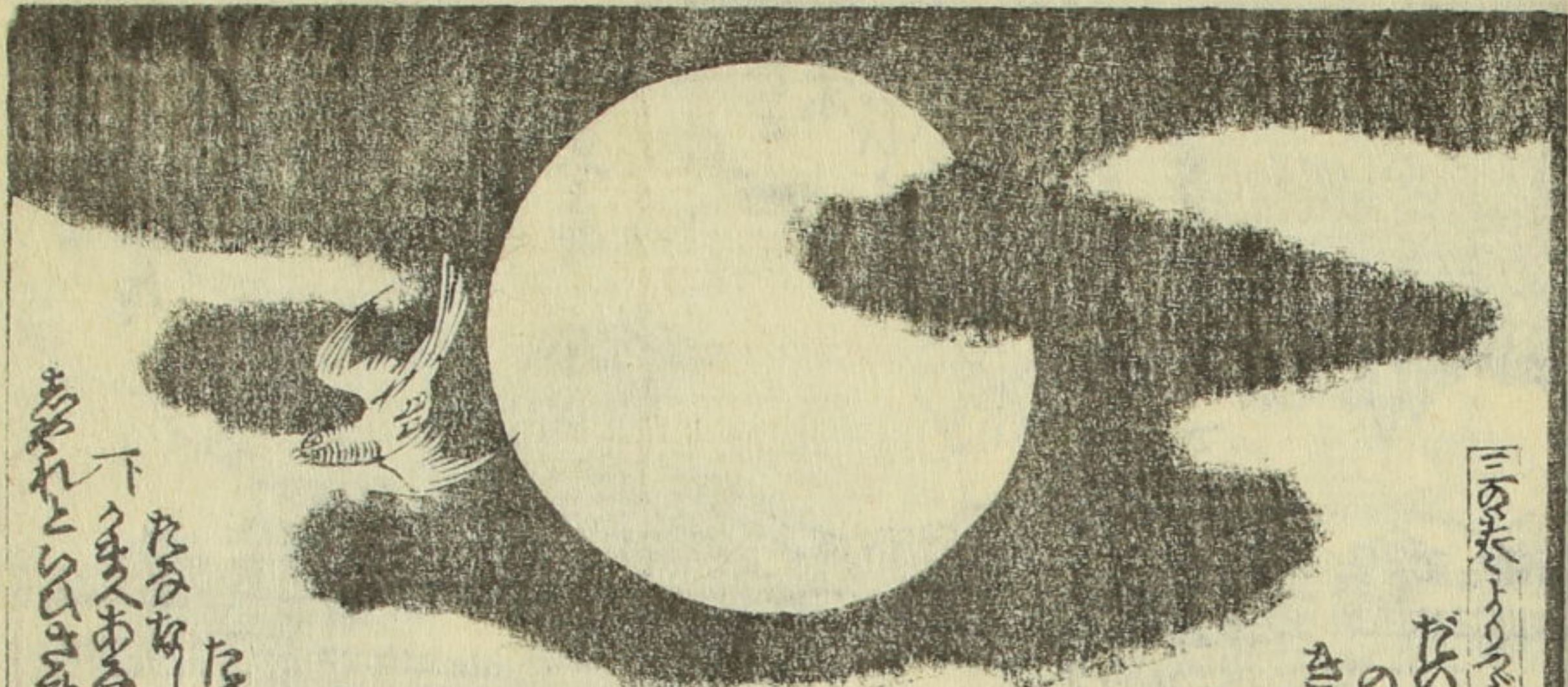
あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの

あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの

あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの

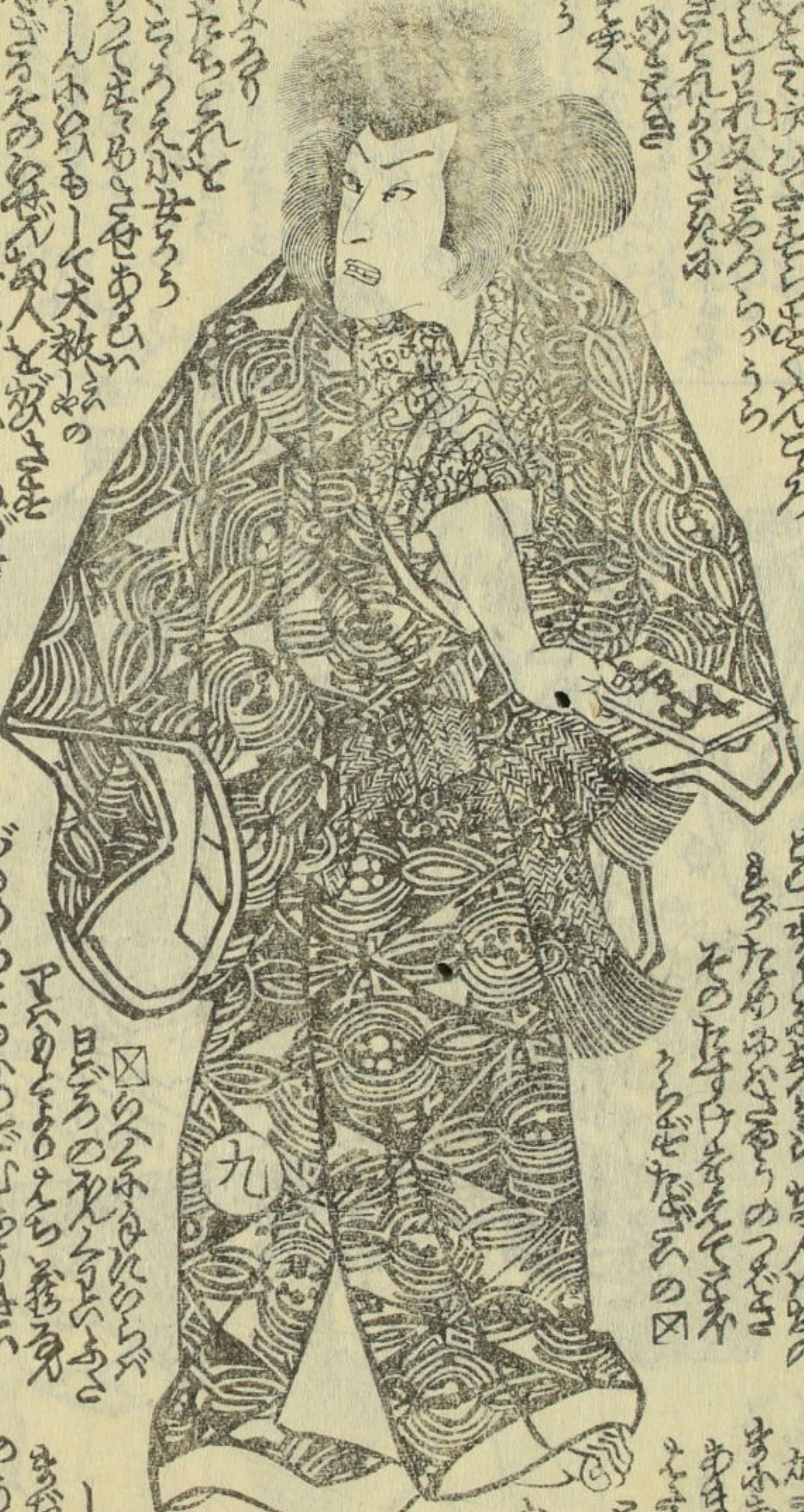
あつちのけりしけ  
降参りしとてよのの  
のりありしとてよのの  
本参りしとてよのの





三  
下  
上

三  
下  
上



三  
下  
上

三  
下  
上











嘉永五年壬子歲新鑄書目録

志乃ぬひも結のゑり

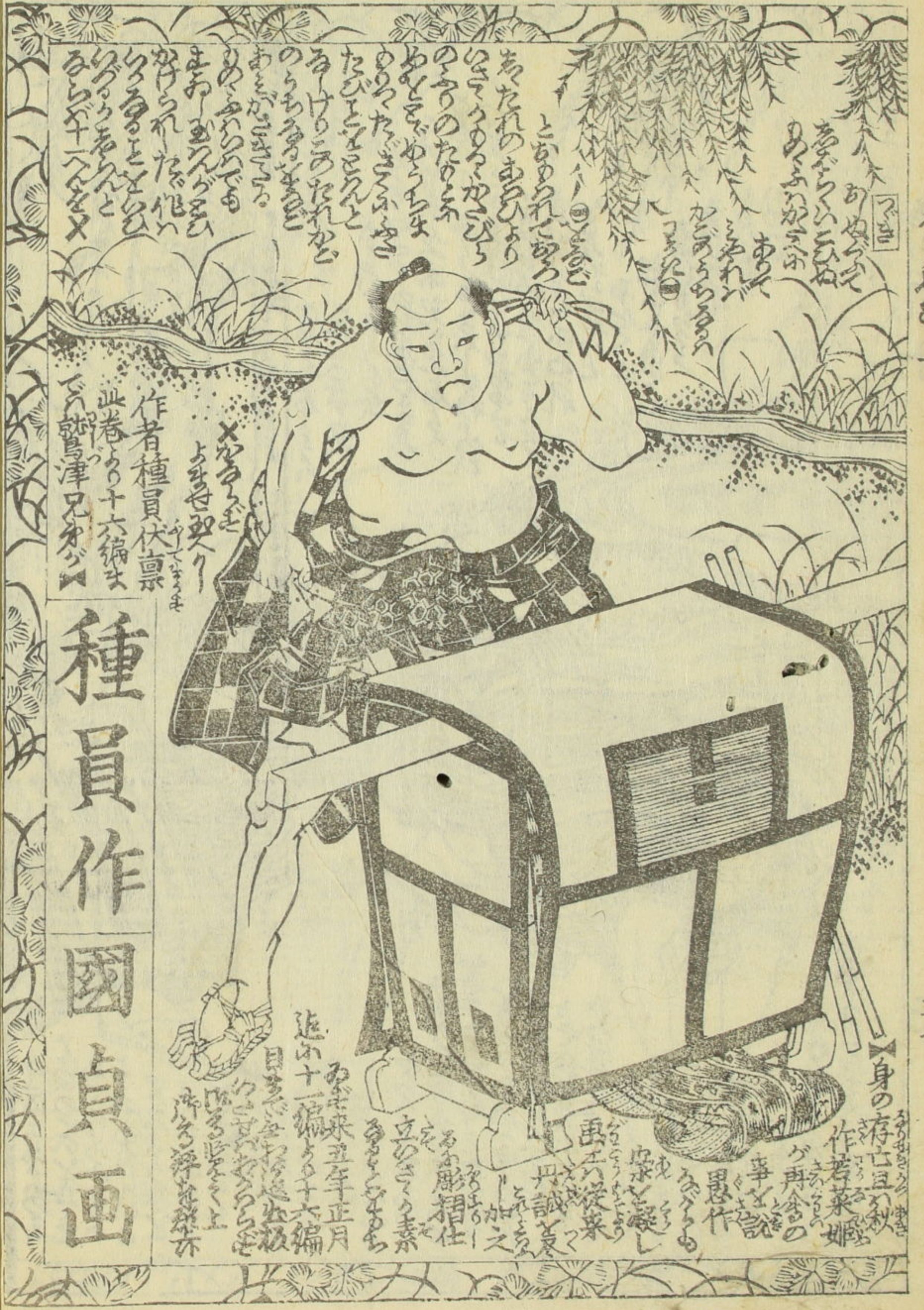
折下身種貞作  
手島松樓老國画

右冊子の美しき見物様方殊々外邦意に似て編み乃許尋常山同  
當春の七編より十二の編迄は右邊の板の間に挿入し一年七八編つて  
毎通の帯は右の別より左の帯と折板を縫ひ通し各段に長襷  
の表と裏の編の段摺同前の趣の當に板の間に挿入し仕境に入  
條はね成且又重なる珠更丹敷とて一色に縫ひたる極細の  
目立板毎段の間に重なる店とみ米とを右の帯の間に縫ひたる

新曲富士太鼓

同作 同画  
當年出版

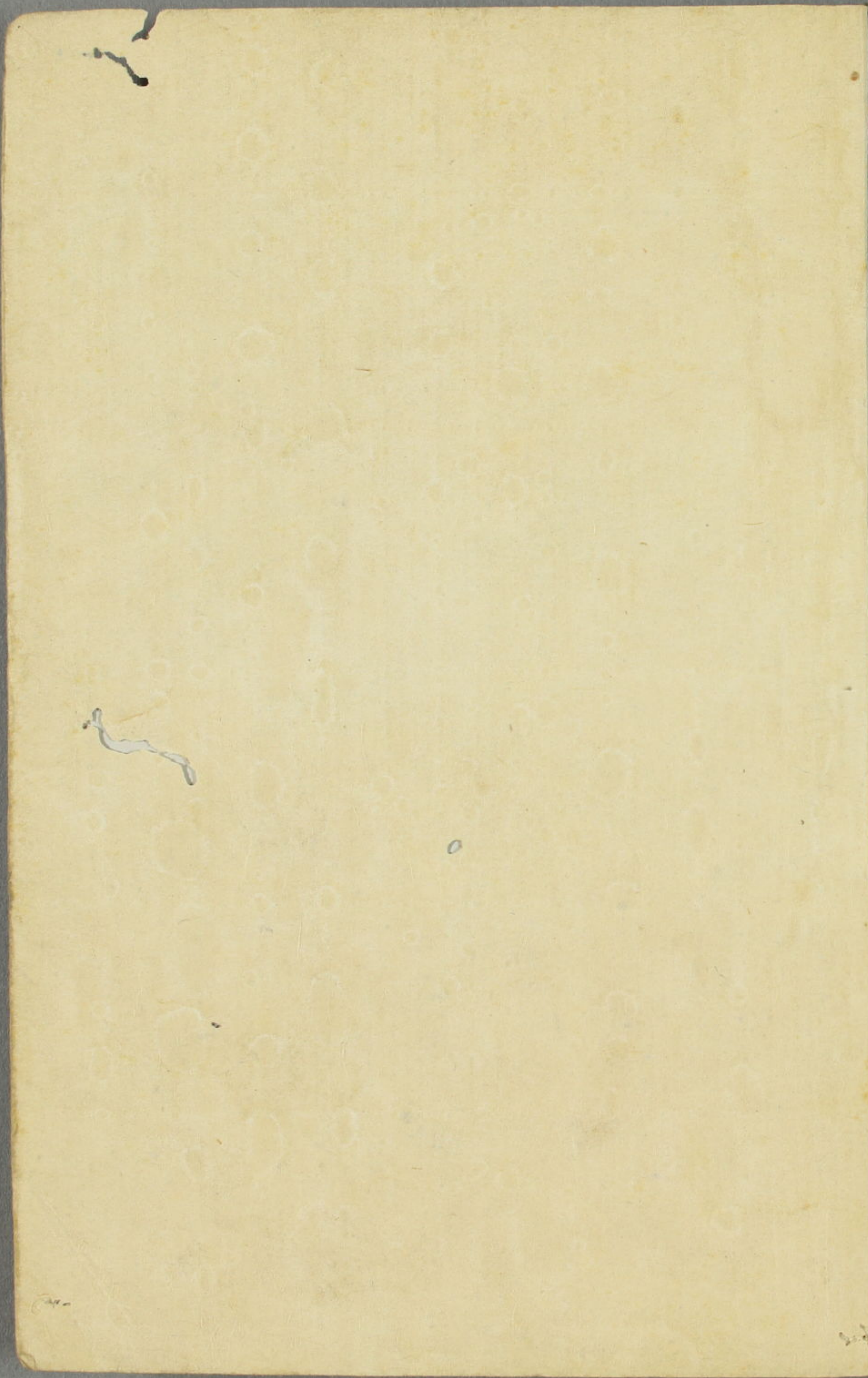
地本錦画書林 通油町 藤岡屋慶治郎板



種員作國貞画

作者種員伏原  
此巻より十六編迄  
は脚津兄弟の

身の内  
作若菜姫  
事と説  
愚作  
丹誠  
再云從来  
立のさう素  
るの願担任  
目録  
近の十一編より十六編  
は脚津兄弟の  
作





不 種

負 知

此 物

國 物

貞 德

車

十 編

松 文 庫

